

掛田の歴史ガイド



掛田自治協議会

はじめに

令和5年となりました。「この町に住んで良かった」と言う町づくりを目指し発足した掛田自治協議会も8年目を迎えました。

発足当時から『地域に伝わる歴史的遺産や町外れの小高い丘にひっそりとあった鎮守様、そして建造物などが取り壊されたり、風化してしまう、今だから書き記し、代々伝えていける物がある。』と、役員会や地域づくり部会などで幾度となく話題として上がっていました。

そこで当時の地域づくり部会長岡崎勝弘さんを始め、事務局長渡辺 隆さんが中心となり動き出し、3年前地域づくり部会委員の皆さんの協力のもと、掛田地区を4つのブロックに分け、藪化した山道や坂を分け入り、時には持ち主の許可を頂き、祠(ほこら)の錠を開けて頂いたこともありました。

また、地元郷土史家や関係者の話を拝聴したり、関連書物等の提供を受け、写真に収める事ができました。

調査に当たった私達も、建立当時の方々の熱い思いを強く感じ、益々きちんとした形として次世代へ繋いでいかなければならないと思いました。

そして、ここに3年の月日をかけて「掛田の歴史ガイド」が完成。

『掛田地域の皆様には全戸配布しよう』という運びになりました。

掛田の歴史や言い伝えなど次世代へ継承されますように強く願っております。

なお、名所・旧跡には、私有地もあります。

令和5年4月



私有地につきまは、無断での見学はご遠慮ください。

掛田自治協議会 会長 大友 靖子

掛田名の起源 口碑伝説（郷土史より）

本町の地に馬が無く日所経津主命は馬が欲しいと天白鷲令に命じ陸奥國稻庭山神に多くの馬を畜う。

汝往て乞を得て來いと白鷲命を往て乞うと稻庭山に向かう。稻庭神は白鷲の容貌醜陋なる面みて馬を與えず。

白鷲篠藪の中に隠伏し栗毛馬槽毛馬各一頭を盗み之を駆けて追走す。

ニ馬田を駆けて走る。

以って比地を駆田と命す後懸田と称し後又現今の掛田と言う。

（何れの頃より掛田と称するか知る由なし筆画の省略に従うべし、信達二郡村誌より）

また、福島から相馬、相馬から福島と物資を運ぶ際、丁度真ん中にあったこの地域で馬を掛替えたことから“掛田”となった等諸説がある。

霊山町の主な出来事

| 西暦 | 年号 | 主な出来事 | 西暦 | 年号 | 主な出来事 |
|-------|------|---|------|-----|-------------------------------------|
| 1873年 | 明治6年 | ・掛田・大石・上小国・下小国・山野川に、それぞれお寺や家を借りて学校が開校される。 | 1966 | 41年 | ・NHKテレビ中継所が大滝山頂に完成。 |
| 1882 | 15年 | ・掛田小学校、校舎をたてる。 | 1967 | 42年 | ・霊山町役場新庁舎完成。 |
| 1885 | 18年 | ・山野川小を掛田小へ統合する。 | 1968 | 43年 | ・掛田中・霊山中・石戸中が統合して、霊山中学校となる。 |
| 1888 | 21年 | ・掛田に巡査駐在所が設置される。 | 1969 | 44年 | ・霊山中学校新校舎完成、スクールバスも巡行を始める。 |
| 1898 | 31年 | ・掛田村が、掛田町となる。 | | | ・霊山町全地区のゴミ収集を始める。 |
| 1911 | 44年 | ・保原一掛田間に軽便鉄道が延長される。 | 1970 | 45年 | ・山戸田小が掛田小へ統合される。 |
| 1912 | 大正元年 | ・掛田に電話が開通する。 | 1971 | 46年 | ・福島一掛田間の電車廃止となる、 |
| 1915 | 4年 | ・掛田一川俣間に軽便鉄道が延長される。 | | | ・掛田幼稚園舎完成。 |
| | | ・飛行機が、初めて伊達郡上空を飛ぶ。 | 1972 | 47年 | ・中川小が掛田小へ統合される。 |
| 1921 | 10年 | ・霊山電燈KKが送電を開始し、初めて泉原地区に電燈がともる。 | | | ・掛田市街地がすべて駐車禁止となる。 |
| 1929 | 昭和4年 | ・川俣・保原・霊山定期バスが開通する。 | | | ・伊達地方消防組合常備消防(東分署)が設置される。 |
| | | ・このころから、リヤカーが普及し始める。 | | | ・霊山子どもの村開園。 |
| 1930 | 5年 | ・福島一掛田間の軽便鉄道が、電車になる。 | | | ・山戸田地区に大型ハウス18棟つくられる。 |
| 1934 | 9年 | ・掛田小ヘストーブがとりつけられる。 | 1973 | 48年 | ・掛田地区商店街の街灯が、水銀灯にかわる。 |
| | | ・掛田一川俣間の軽便鉄道が廃止される。 | | | ・掛田小学校の新校舎完成。 |
| 1937 | 12年 | ・このころ動力脱こく機が使われるようになる。 | | | ・電話が自動ダイヤルになる。 |
| 1947 | 22年 | ・掛田中・霊山中・石戸中・小国中学校が、それぞれつくられる。 | | | ・国道115号バイパスが完成する。 |
| 1948 | 23年 | ・保原高校の掛田分校ができる。 | 1975 | 50年 | ・掛田小の体育館が完成。 |
| 1950 | 25年 | ・掛田中学校新校舎ができる。 | | | ・保原高校の掛田分校が廃止される |
| 1955 | 30年 | ・掛田町・石戸村・霊山村・小国村村、合併して霊山町となる。 | | | ・このころから、川のよごれカリどいという記事が、広報にのるようになる。 |
| 1957 | 32年 | ・小国中学校が、掛田中学校へ統合される。 | 1976 | 51年 | ・伊達地方衛生処理組合ゴミ焼却場が完成する。 |
| 1961年 | 36年 | ・県道福島・相馬線の舗装がはじまる。 | | | ・掛田小プール完成。 |
| | | ・掛田駅前から北町岩井商店前までの舗装が完成する。街路灯がつけられる。 | 1977 | 52年 | ・「湧水の里」が完成し開場する。 |
| 1962 | 37年 | ・掛田幼唯園が、掛田小学校に併設される。 | | | ・このころから空缶の問題が、広報にのるようになる。 |
| | | ・農協有線放送が始まる。 | 1978 | 53年 | ・タナシン電機が下小国につくられることになる。 |
| | | ・福島一相馬線が、2級国道になる。 | | | ・中央公民館が完成する。 |
| 1963 | 38年 | ・掛田地区簡易水道ができる。 | 1979 | 54年 | ・町営簡易水道配水池が完成し、今までの2倍給水できるようになる。 |
| | | ・掛田中にプール完成。 | | | ・掛田駐在所にパトカーが配車される |
| | | ・掛田小で完全給食がはじまる。 | 1980 | 55年 | ・町民体育館が完成する。 |
| 1964 | 39年 | ・町章が制定される。 | 1983 | 58年 | ・日向前に住宅地をつくる工事がはじまる。 |
| 1965 | 40年 | ・ゴミの収集が掛田町内ではじまる | 1985 | 60 | ・運動広場が完成する。 |
| | | ・掛田・霊山・石戸・小国の4つの農協が-つに合併される。 | 1988 | 63 | ・霊山中学校新校舎完成。 |

館・陣場・金子町方面



引用元：Google社「Google マップ」

① 稲荷神社（作田）



- 国道115号線 八巻醤油店脇の柿の木畑奥の山
- 正一位作田稲荷神（蚕）
- 大橋作太郎氏（金沢屋）の神社
- 伏見稲荷大社より明治20年 分祀
- 金沢屋大橋伊三郎氏は「青熟」で明治から大正に掛けて栄えた。
- 蚕の種赤熟系の中の青引種から織度適度の繭から選出されたのが起原で色沢佳良、織度細目絹の原料として青熟が好適とされた。
- 稲荷神社を建立してお祀りしている。

②

薬師堂不動明王 陣場



不動明王



本尊 不動明王

鎮座地 伊達市霊山町掛田字東陣場2丁目1番地

部落を救った和尚さんの話

陣場部落には千海和尚さんの言い伝えが残っています。

昔の陣場部落には行輪寺というお寺がありました。

この和尚さんは千海という偉い和尚さんで、部落の人たちを集めては、仏様のこと、先祖を大切にする事と、部落の人が助け合うこと、また、丁寧に読み書き、人の生き方など広く学問を教えており、親しまれ、尊敬されていました。

和尚さんには困った事がありました。

それは、跡継ぎ(息子)が居ないことでした。

高齢となり、和尚は部落の人を集め遺言のお願いをしました。

私が死んだら陣場の一番川上に葬ってお盆には火の気が入らない生物をお供えしてください。

墓参りは1番先にしてください、そうしてくれるなら死んでも陣場を守ります。悪病、厄病は陣場に入れないといい亡くなりました。

その後、周囲の部落で大変悪い病気がはやり多くの人が死んで行きましたが陣場は災いから逃れているといい伝えられています。

②

薬師堂薬師如来 陣場



薬師如来

本尊 薬師如来

鎮座地 伊達市霊山町掛田字東陣場2丁目1番地

明正寺と並びにあったが、洪水や火災により東陣場に行輪寺として祀られたがまた、幾多の災害で荒れ果て三乗院として明正寺などと祀られ、この地は墓地のみが残った。

明治20年代地域の皆さんにより薬師堂とした薬師如来を祀り、陣場の薬師様として信仰を集め現在に至っております。

現在も近くに流れる小国川に架かる橋は「行輪寺橋」の愛称銘版が取り付けられています。

③

竹生嶋流棒術記念碑



所在地 掛田字館178番地

引地松男様宅 裏山の中腹に、数多くの石碑が立ち並ぶ5坪程の広場がある。

上の段に 天保十四年癸卯年 竹生嶋流 先師近江國 榊原左京大夫 藤原保房の碑があります。

大石広畑地内にも存在しますが、大石の記念碑は明治になって建てられたものと思われます。

引地松男様 宅裏山

竹生嶋流棒術記念碑、辨財天神の碑、

(ちくぶじま流棒術)

(旅の武芸者 藤原森光により伝授)

碑建立一員に八島謙中良の銘が刻印
山戸田村八島家祖先八島成正の父 成美幼名謙次郎

家系図に免許者伝者「郎」は「良」と記名
文政9年～明治5年=西暦1825～1872年

④

茶臼館神社



- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字古城山1番地
- 御祭神 懸田定隆命
懸田俊宗命
懸用御前姫命
- 茶臼館神社(山頂に建立)(懸田定隆、懸田俊宗、懸田御前姫の三君を祀る)
- 建武2年4月15日高松城より移り茶臼山城主懸田近江守定隆、定兼、定勝三代の居城(応永20年まで)
- 天文9年6月19日 父懸田播磨守定勝の後を次ぎ俊宗懸田城主となる。
- 天文12年3月15日伊達晴宗が弟亙理綱宗を殺す。
- 父植宗との戦い・俊宗父方につき戦い・晴宗・政宗軍の危機をよく守ったが同22年滅亡、助三郎懸田城を以て政宗に降りる。
- 掛田御前晴宗妹、中島伊勢宗忠に寄る(保原城主・後の伊具郡金山城主)天正14年3月15日(1586)宗忠金山城にて御前を斬殺す

頂上に記念碑在り。菅野陣平の歌に
幾千代も をこのえ久しき 君の夜
に

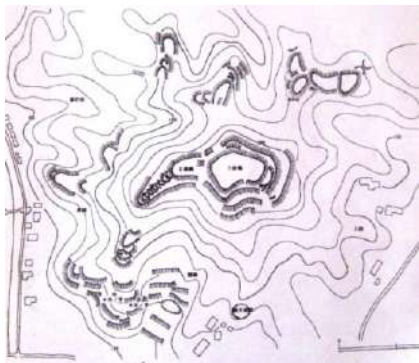
④

茶臼山



- 掛田市街地の東側を流れる小国川の対岸、茶臼山（古城山）にあり、城館としてその形態をよくとどめ、史跡としてもその存在価値については内外に評価の高いものがある。
- 標高255.2m比高差125m、土塁、空堀、帯郭から成る山城である。城自体独立丘陵に位置する。茶臼山山頂部の主郭を中心として西から南へ湾曲する急斜面の稜線上に、小郭が階段上に張り出す梯郭式の綱張りである。本郭直下約20mの帯郭より登る通路は、全体的に螺旋状を呈しており主郭部付近に至り渦郭式の形状を呈している。懸田城の築城時期は明確ではないが、南北朝時代の南朝方の武将懸田定隆の居城であり、靈山城の出城でもあった。
- 信夫郡岡本村高松城主陸奥六郎義隆の子、高森近江守定隆（懸田定隆）が南北朝時代の南朝方北畠顕家に仕え、建武2年(1335年)信夫郡高松城より靈山城の出城である懸田城に移り、懸田氏を称したとされている。現在は桜の名所としても親しまれている。
- 南北朝の動乱期に、南朝方の伊達行朝（7代）が懸田氏をおいて守りを固めたといわれます。辺りを一望できる高台は桜の名所として知られ、4月中旬～下旬には、掛田市街地からピンク色に染まった山斜面を眺めることができます。

④ 懸田城跡



北畠顕家の像(荻生天泉筆)
(霊山町掛田 佐藤健一氏蔵)

掛田市街地の東側を流れる小国川の対岸、茶臼山（古城山）にあり、城館としてその形態をよくとどめ、史跡としてもその存在価値については内外に評価が高い。

標高255.2m 比高差125m、土塁、空堀、帯郭から成る山城である。

城自体独立丘陵に位置、茶臼山山頂部の主郭を中心として西から南へ湾曲する急斜面の稜線上に、小郭が階段上に張り出す梯郭式の綱張りである。

本郭直下約20mの帯郭より登る通路は、全体的に螺旋状を呈しており主郭部付近に至り渦郭式の形状を呈している。

懸田城の築城時期は明確ではないが、南北朝時代の南朝方の武将懸田定隆の居城であり、霊山城の出城でもあった。

信夫郡岡本村高松城主陸奥六郎義隆の子、高森近江守定隆（懸田定隆）が南北朝時代の南朝方北畠顕家に仕え、建武2年（1335年）信夫郡高松城より霊山城の出城である懸田城に移り、懸田氏を称したとされている。現在は桜の名所としても親しまれている。

南北朝の動乱期に、南朝方の伊達行朝(7代)が懸田氏をおいて守りを固めたといわれている。辺りを一望できる高台は桜の名所として知られ、4月中旬～下旬には、掛田市街地からピンク色に染まった山斜面を眺めることができる。

山頂には公園記念碑、山腹には郷土の歌人佐藤嘲花の歌碑と同詩人高橋新二の詩碑がある。

⑤ 懸田御前観音堂



懸田御前観音像



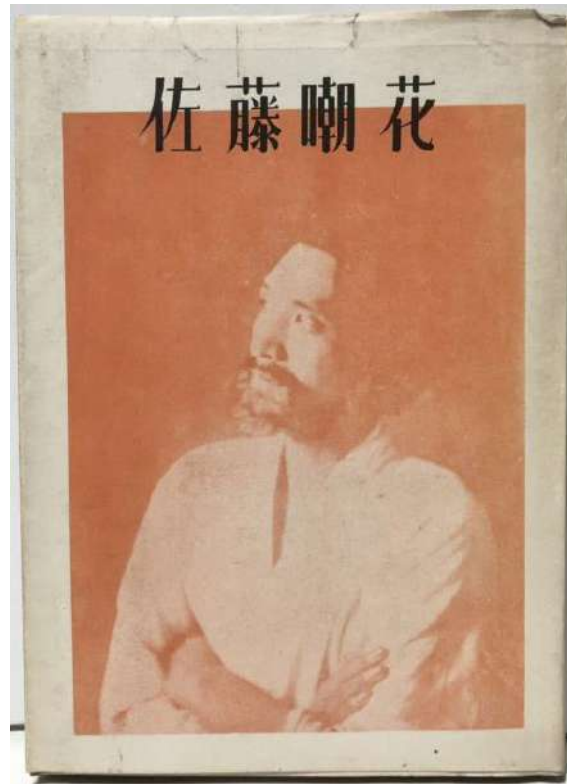
建立記念碑

懸田御前観音堂、その昔春の頃には紅白幕を掛け、お祀りした。
平成に入り大雪で甚大な被害となっていました。
2019年有志の寄付で再建されました。
再建の碑も建立されています。
本尊は三乗院にお祀りしております。

⑥ 歌碑 佐藤 嘲花



1887 - 1922 明治から大正時代の歌人、明治44年前田夕暮の「詩歌」の発刊に加わる。大正4年福島民友新聞の記者となる。」



白石の医者佐藤一家は養蚕で栄えた掛田の金沢屋大橋佐太郎の招きで掛田に開業した。医者の息子として多幸に育ち文学・詩歌を愛し明治39年早稲田大学へ。郷里の思いを沢山詩歌に福島民友新聞に入社し、選者を務めた。若くして胸を病み短い人生でしたが、多くの作品があり死後、著者宮本織絵によって「佐藤嘲花」遺歌集が残されております。茶臼山中腹に文学愛好家により歌碑建立されました。

碑文には

**「遠山は雪もはだらに春日さす
この街道はゆけど飽かず
も」**

と刻まれている。

⑥ 歌碑 高橋 新二



自由詩の黎明期を切り拓き、生涯詩作に生きた詩人

高橋新二は明治39年掛田に生まれ育ち、若くして文学を好み、多くの詩歌を残し、福島県いや日本文化・文壇の発展に寄与された歌人で、ここ掛田に文学の泉を盛んに発掘し故郷の山を愛し多くの歌を残している。また、多くの(180余り)校歌を作詞し、歌われている。地域の旧友など、多くの方の歌碑建立の輪が広がり茶臼山中腹に建立された。

碑文 山の山
山のかなた
山こえて
山の果てに
海ありと



碑文は高橋新二さん直筆の文字で、5行刻まれています。

⑦ 黄金山 (こがねやま) 神社



- 御祭神 富主姫
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字古城山2番地
- 金華山より分霊文久2年富主姫を祀る
明治4年10月建立

⑧

若松屋蔵 (元陣場屋の蔵)



元陣場屋 菅野平右衛門さんの蔵
(蚕の種などを保管)

現在はクリエート若松屋さん所有。

昔は、養蚕で栄えた掛田の町を忍ぶ
事の出来る土蔵の一つです。

⑨ 元 鈴木歯科医院



縦書きの電話番号が門柱に、国旗掲揚器具が備えてあり、時代を感じさせる。

- 昭和初期に建てられた洋風建築

⑩

掛田蚕業伝習所跡 (館山家住宅)



明治時代伝習所の写真 (提供：館山家)

館山家は明治14年に我が国最初の民間「蚕業伝習所」を創設し、明治28年に閉所するまで全国養蚕農家の子弟の技術習得に務めました。

また、「機業伝習所」も併設し、広巾輸出軽目羽二重機の開発に務め、今日の川俣軽目羽衣の隆盛につながっています。

(伝習所の建物は現存していません)

出典：掛田地区健幸都市協議会

⑪

金刀比羅神社 (三浦家守り神)



御祭神 天照大神

大物主命

天御中主命

鎮座地 伊達市霊山町掛田字西館5番地

航海の安全や豊漁・五穀豊穰・商売繁盛などご利役として篤い信仰を集めており、四国の本山より分神
こんぴら様の祭りは「おふかし」が貰える。
この社前の山桜の大木はなぜか横上に伸びているので、
子供達のかっこうな遊ぶ場となっていた。
5月頃には小さいサクランボが成るので、子供達が群がっていました。



⑫

明正寺 石塔



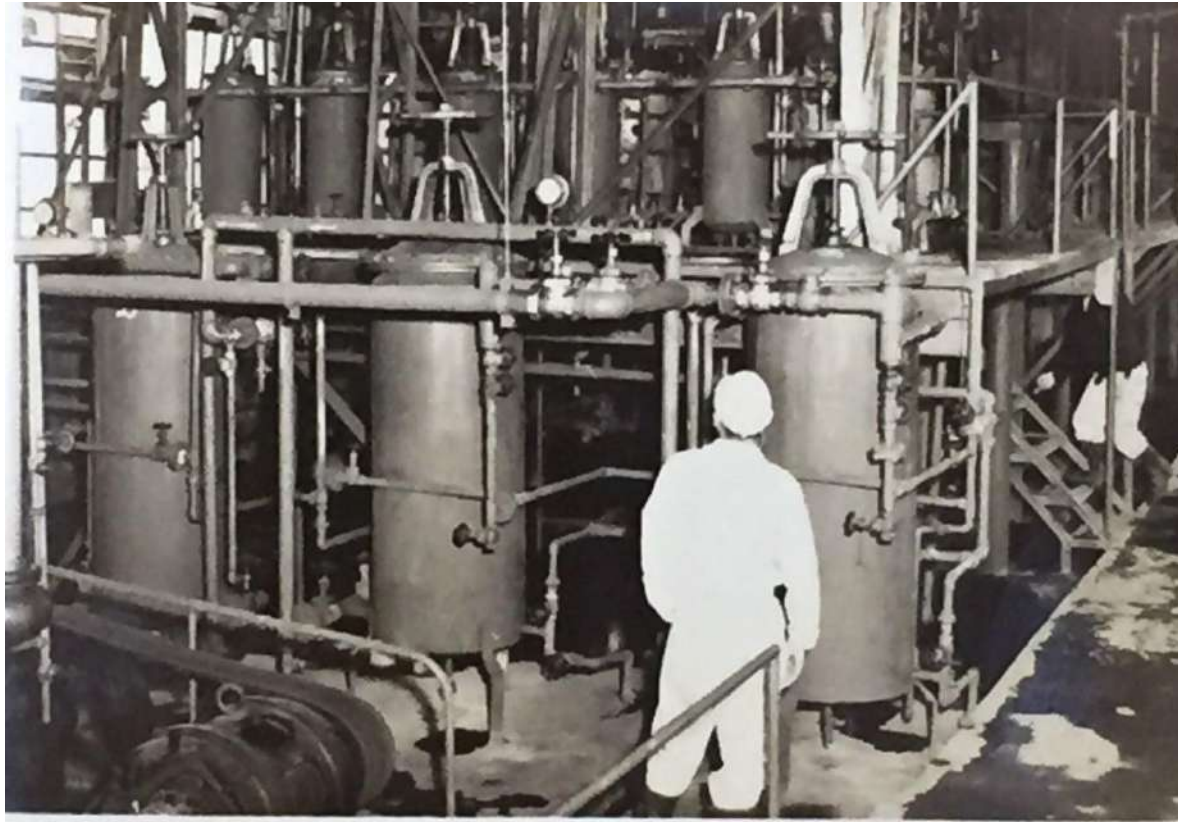
応永8年（1401年）釈迦三尊の梵字が刻印 懸
田氏は天正16年攻め滅ぼされ（1588年）
懸田助三郎は仙台に逃れた。
碑建立は滅亡より180年も古い。

懸田近江守定隆が茶臼山築城と共に旦那寺造建
故に懸田氏滅亡後、子孫か家臣達が石碑を建立
したものと思われる。

虫供養塔の伝えは宇治御前が養蚕振興に努め
たとの故事によるものと言われている。

懸田氏は1325年～1588年。
約260年続いた。

⑬ ライオン菌薬工業KK内部 (段居)



昔ライオン製薬の子会社で新薬研究所（ペニシリンを研究製造所していた）が火災により焼失した。現在の伊達市霊山総合支所所在地

ペニシリン委員会の設立

1944年2月1日に稲垣克彦を中心に4名を幹事としてたペニシリン委員会が組織化され、第一回委員会が開催された。委員長は陸軍軍医学校長三木良英中将

日本ペニシリン協会設立時の会員会社

| | |
|------------|------------|
| 万有製薬(株) | ライオン製薬(株) |
| 第一製薬(株) | 理研栄養薬品(株) |
| 大日本製薬(株) | 三共(株) |
| 郡是製糸(株) | 三洋油脂(株) |
| 星製薬(株) | 匂坂酵素産業(株) |
| (株)北海道興農公社 | 新日本興業(株) |
| 藤沢薬品工業(株) | 塩野義製薬(株) |
| 協和産業(株) | 昭和製薬(株) |
| 森永薬品(株) | 品川電機(株) |
| 三井化学工業(株) | 東洋酵母工業(株) |
| 明治産業(株) | 多摩川化学(株) |
| 明治乳業(株) | 武田薬品工業(株) |
| 中島化学工業(株) | 玉屋産業(株) |
| 日新化学工業(株) | 鳥居製薬(株) |
| 日本新薬(株) | 帝国社農芸化学(株) |
| 大沢乳工業(株) | (合計31社) |

①4

防空監視哨（段居）



当時の任務した関係者

太平洋戦争前に（1941年）防空監視哨が出来た。

現在の霊山総合支所裏、段居山の松林を切って平らにして建設されました。

丸い屋根を葺くのに苦労したと言う。

掛田の町が丸見えの山の上、直径2m深さ2mの桶を埋けた様な大きな穴、戦時中敵機を探ったと言う。

「飛行機の方角・機種・機数・高度約2000」と言った具合に、電話で県庁に連絡、県庁から仙台の第二師団を通じ各地に警報が発せられました。

写真は当時その任務について関係者で7人一組で編成、5組あり更に予備として10程度いたと言われていました。

戦争に勝つため唯一の施設でもありました。

①5 堀井戸 (段居)



段居の井戸

地域の人々の飲み水、生活用水として利用されていた。
2011年東日本大震災時にも地域の人々はもらい水で大いに助けられた。



水神様、水の神様として水の守り神といってお祀り

①⑥ 記念碑 (霊山町閉町記念の碑)



平成17年12月31日 閉町

中町・新町・岡・北町・薬研坂・清水 方面



引用元：Google社「Google マップ」

① 薬師堂 岡 穴戸家



穴戸東庵先生、医者をしていた穴戸家の薬師堂は地域の人々の健康を祈り祀られたのか、石の階段を登った中腹の静かな竹林の中にひっそりと建っている。

「雲晴れて つきいる田の薬師堂 もう吹く風ものりときくらん」4月15日の祭礼。雪の降ることもあったという。昔は甘酒進上の祭礼で有名だったと言う。

② 金沢屋蔵



改装前の全景



金沢屋さん裏の井戸

養蚕で栄えた金沢屋さんは、作田の稲荷神社建立、亀岡神社の白馬、石灯籠などを寄贈した。2022年建物の一部は取り壊されていますが、掛田の街並にはこのような蔵がたくさんあったと言う。金沢屋（大橋伊三郎）が天保時代に赤熟系の中の青引種から織度適度の繭が選出されたのが起源で、色沢佳良、織度細く軽目絹の原料に好適とされた。明治から大正に掛けて長く重用され繁盛した商店。

③ 安田家



安田利作（やすだりさく）

市町村：伊達市霊山町掛田

生没年：1847～1896

時代：江戸時代～明治

1847年に、掛田村の商家に生まれました。

利作の家は、まわりの村から生糸や絹を買い集めて、他の地方へ売ったり、蚕の種を作って売ったりする大きな店でした。利作は外国へも生糸を輸出しようとしたのですが、糸の取り方が不完全でうまくいきません。利作は何回も失敗しながらようやく「折り返し糸」をつくり出しました。

「掛田折り返し糸」と名づけて、外国にも輸出しました。さらにたくさんの人びとと力を合わせて、さまざまな展覧会にも生糸を出品しました。

第1回全国蚕糸共進会で、利作をはじめとして18名が入賞しました。

これにより、掛田はますます有名になりました。

利作は、その時その時の生糸の値段（ねだん）を調べるためにわざわざ横浜から「内外生糸商況日報」をとりよせていました。そして、いつ売れば高く売れるのかを研究していました。

利作が中心になって建てた「掛田養蚕伝習所」は、多くの人の協力で、全国のたくさんの人に養蚕の技術を教えました。



③ 安田家 (木戸と蔵)



以前は現在の掛田郵便局になっている大通りに
面した場所に木戸がありました。
(現在移築した門)



安田家にはこのような蔵がいくつもありました。。

③ 安田家



奥州座繰りで糸を取る様子



当時の製糸工場内部

④

佐藤家



亀岡神社境内に建立

宮内庁入江相政元侍従長の書

- 川城屋久之助（佐藤久之助）は色々繭品種改良に取り組んでいた。
- 白繭品種「赤熟」天明年間（1780年頃）を育成し、明治時代白繭種流行の先駆者として明治25年まで広く重用されていた。
- 大柄な白繭で糸量も多く、虫質はあまり強健ではなかったが、養蚕家の多くの利益をもたらした。

参考資料：靈山史談5号

⑤ 拈華山三乗院



三乗院(さんじょういん)は天文元年(1532)に掛田川尻内佐藤宗家の初祖、瀬成田城主佐藤越中守信種公が開基し、後に川俣町飯坂、本寺頭陀寺(ずだじ)第七世鷲雄大鷲(がくゆうだいさく)禅師を勧請し開山とした禅寺です。寺籍は曹洞宗(そうとうしゅう)に属し、大本山は福井の永平寺(えいへいじ)と鶴見の總持寺(そうじじ)です。本尊は釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)で脇侍に文殊菩薩(もんじゅぼさつ)と普賢菩薩(ふげんぼさつ)をまつります。

⑤ 三乗院山門



切妻造、銅板葺の四脚門。万延元年（1860）の再建当時は板葺きであった。扉と彫刻は慶応元年（1865）の造作である。彫刻は宇都宮の彫刻師「後藤源治」の作と伝えられる。雌雄の唐獅子があり「山形御用 鑄物師 荘司吉作」の銘がある。

伊達市指定有形文化財
昭和57年7月15日
伊達市教育委員会

⑤

三乗院 妙見堂



久之助の徳を偲び村人が建てた記念碑（三乗院境内）

妙見尊

養蚕赤塾を完成させた川城屋久之助翁

蚕種「川久赤塾」の創始者川久こと佐藤久之助は、幼少時より蚕業に熱心に取り組む姿は驚くべきものであった。佐藤家は代々養蚕を業として発展してきたが、7代正信から9代友信の代に一代発展を遂げ、豪農としての確固たる地位を築いた。

特に後世の養蚕経営に大きな影響を与えたと言われる名著「養蚕茶話記」「養蚕日誌」は久之助の祖父、9代友信の手による物

蚕種製造に成功を修めた久之助は育蚕の技術にも非常に優れていたため、教えを請うが為に、近隣、近郊の養蚕家の師弟が彼の門を叩き、久之助からの徳化を受けて多くの養蚕家を育成し、掛田が幕末から明治時代に養蚕、生糸で栄えた。

1783年（天明3年）生まれ1843年（天保14年）5月69歳 病気で亡くなりました。 <霊山史談5号より抜粋>

⑥ 掛田小学校



明治43年7月17日（1910）尋常高等小学校増築校舎落成



大正14年（1925）前面改築した校舎と新講堂落成

1972年（昭和47年）まで現在の霊山中央交流館の場所にあり、子どもたちの学び舎として、多くの卒業生を送り出しました。

| 掛田地区文化財現地調査から | | | | | |
|---------------|--------------|-----|-----------------|------|--------|
| 西暦 | 元号 | 区分等 | 文化財等名 他 | 地区名等 | 備考 |
| 1873 | 明治 6.4.15 | 小学校 | 掛田小学校三乗院に創設 | 西裏6 | |
| 1882 | 15.2.5 | 小学校 | 掛田小新校舎落成式 | 西裏19 | |
| 1885 | 18.4.1 | 同 | 山野川小学校を掛田小学校に合併 | 同 | |
| 1919 | 大正6.4 | 小学校 | 掛田小学校校旗新調 | 西裏 | |
| 1925 | 14 | 小学校 | 掛田小学校新校舎・講堂 | 西裏 | |
| 1931 | 昭和6.4 | 小学校 | 掛田小学校校歌制定 | 西裏 | |
| 1941 | 16.4.1 | | 掛田国民学校と改称 | | |
| 1945 | 20.8.15 | | (終戦) | | |
| 1947 | 22.4.1 | 小学校 | 掛田町立掛田小学校と改称 | 西裏 | |
| 1947 | 22.4.1 | 中学 | 掛田町立掛田中学校発足 | 百裏 | 新制中学発足 |
| 1950 | 25.3. | 中学 | 掛田中学校新校舎完成・移転 | 下川原 | |
| 1973 | 48.11 | 小学校 | 創立100周年記念式典挙行 | | |
| 1974 | 49.3 | 小学校 | 掛田小学校新校舎落成・移転 | 高ノ上 | |

⑦

岩喜呉服店



以前の店舗と門が移築されたもの

創業 天明元年（1781年）

初代はオザの農家の出。

現在高野喜七さんは8代目

現在の北側駐車場で白石から酒を仕入れて販売する家業でしたが、3代目以降「おざや」の呼び名で地域の方々に愛される呉服屋、岩喜呉服店を始めました。正月2日の初売りは、早朝花火の合図が町中に響き渡り、開店前から縁起物の福袋を買い求めるお客さんや、揃いのハッピー姿で接客する店員さんで大いに賑わいました。

春には小・中学校の制服を買い求める嬉しそうな親子の姿が見られました。

生地も色や柄も豊富に揃えられ、自分で服を作るお客さんには、布地の切り売り販売もしています。

お産が近づけば産着を、婚礼があれば結納一式や布団まで、又、二階では和服の展示販売会など、日常生活に必要な衣類は何でも揃い、多くのお客さんが訪れており現在も「おざや」の愛称で親しまれています。

⑧ 掛田郵便局



明治5年7月1日開設, 初めて通常郵便物
取り扱い開始。後25年7月1日小包郵便物
取り扱い開始 (霊山中央交流館入口)



現在の郵便局舎は生糸「かけだ折返し糸」
で世界に輸出していた生糸商「安田利作家」
の住宅跡地。

⑨ 亀岡神社



- 御祭神 菅田別尊（ほんだわけのみこと）
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字西裏2番地
- この神社は掛田市街地の西に鎮座しています。凛とした空気の張りつめた神域を持つ素敵な神社です。
- 由緒：永観2年(984)、修験僧・舟思大僧正尊海が、豊前国(福岡県)宇佐八幡宮の分霊を奉還し祭ったのが創祀とされます。
- 社名の由来は鎮座地の丘の形が亀の姿に似るところから付けられたようです。
- 文治年中(1185～89)、源義経が祈願に立ち寄り、佐藤継信・忠信に命じて社殿を造営したといわれ、建武2年(1335)には、南朝の忠臣懸田近江守定隆が懸田城にいた時、この社を祈願所とし社殿を奉獻したといわれ、その子播磨の守定勝の代まで(應永6年・1399)この地を領し、社殿の修復等を行ったと伝えられています。
- 天正(1579～91)には、伊達氏がこの地を領しましたが崇敬篤く、仙台へ移った後もその地へ分霊を遷し奉祀したといわれます。慶長年中(1596～1614)、松平陸奥守の家臣中島兵庫が社殿を改造しましたが、元和年中(1615～23)、別当所の火災のため、古文書等もことごとく焼失してしまいました。享保13年(1728)から3年の歳月を費やして、本殿、拝殿、および鳥居などに至るまで改築したと伝えられます。現在の社殿は明治18年(1885)に造営されたもので、この時境内の建物(本殿、拝殿、神輿庫、額堂、馬舎、手水舎等)のほとんどが改築されました。
- 春と秋2度の例祭が執行され、秋の例祭には隔年ごとに神輿渡御祭が行われ、各種の神賑行事が町内の各所で催される。
- 祭日は5月4日秋季は10月第二土曜日神輿渡御があります

⑨ 亀岡神社



亀岡神社鳥居 天保6年建立、老朽化により
平成8年5月 建て替えられました。



⑬

金胎大神 (大橋家氏神様)



御祭神 金胎大神

鎮座地 伊達市霊山町掛田字北町10番地
(大橋久一宅敷地内)

亀岡神社は昔より神仏混合の信仰を集めていましたが、明治維新の大改革により、明治政府は神仏を別々に祭祀するように命令しました。

早速氏子総代7名が協議して政府の命令に従うこととなりました。

当時は各地に法印と呼ばれる責任者がいましたが、亀岡正八幡宮（八幡大菩薩）を、神社として祭祀し宮司職を置き、現在の法印別当を辞めさせました。法印別当を解雇されたことに立腹して総代7名を恨み法印死後「必ずおまえらの家をたたないように（倒産）させてやる」と言って間もなく亡くなりました。

その後3人の氏子総代の家が潰れました。

掛田の旧家大橋家でも色々な災難が続いた事で、怨みを除けて貰う様に金胎大神を祀り祠等が建立されています。

⑭ 防空壕跡 (薬研坂)



崩落した防空壕

太平洋戦争時、本土決戦を覚悟して各地に防空壕が造られた。平成初期頃までは南北に穴があり、トンネルのような造りであった。子供達が入りし、危ないので山から切り出した木々を積み上げ薪の保管庫としていました。

⑮ 清水 (薬研坂)



町の東山添いは特に清水が多い、どこでも冷たい水を腹いっぱい染み込ませる。特に清水内の清水は有名で遠方から年寄りが水を汲みに来る場所で、この水で朝茶を飲むと格別な味がするという。今回の調査2021年まで少しではあるが水が湧き出していた。昔はコンコンと水が湧き出て地域の皆さんの助けになっていたこととされます。清水はこの地域の地名「清水内」にもなっている。

①6 天神社 (菅原道真公)



天神社の礎石のみが残されている。



参拝する時の、手水鉢で長い年月を経て木の成長で起こされたと思われる。

菅原(天)神社 (天神森に鎮座す) 菅原道真公を祀る 氏子13戸 郷土史2 p 1 1
茶臼山山頂北斜面にあり、学問の神様と言うことで受験前には、朝天神様にお参りしてから試験に臨んだ学生も多いと聞きます。

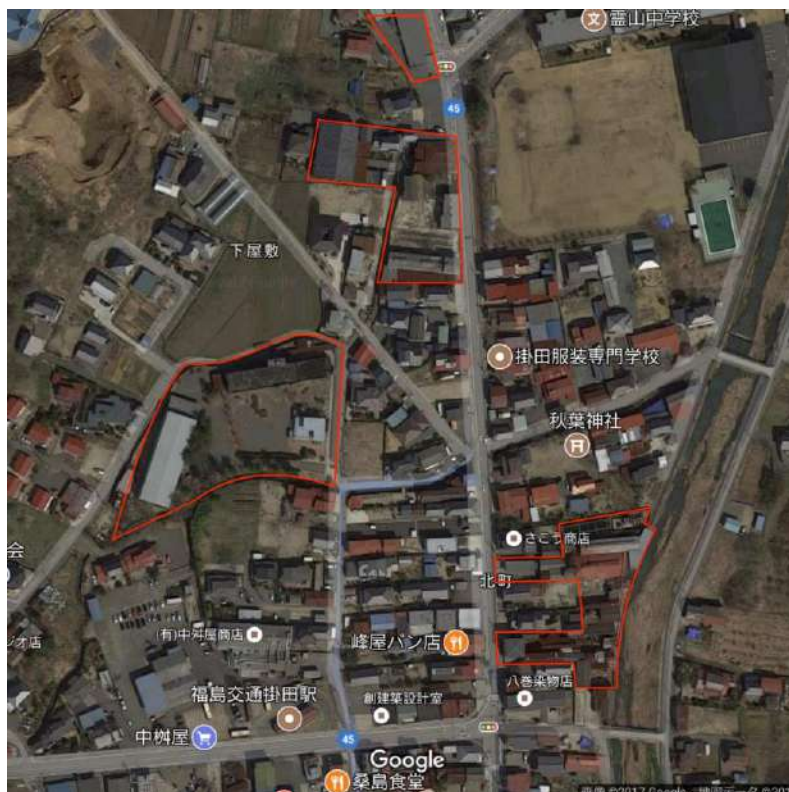
①7

秋葉神社 (火の神様)

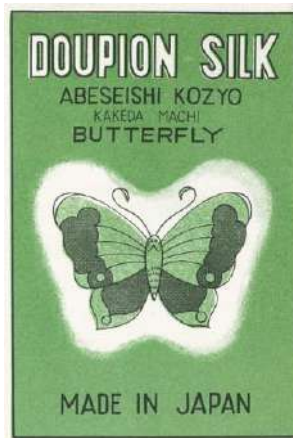


- 御祭神 軻遇突智命
稚日女命
- 鎮新座地 掛田字北町38
- 本社は天竜川と支流気田川の山稜南端秋葉の山頂火の神
- 祭神名 軻遇突智命 (かぐつちのみこと) 稚日女命 (わかひるめのみこと) の2神を合祀る
- 応永8年懸田城 懸田播磨守定勝の代, 明正寺に建立致せるを城主滅亡後、里人が遷移し相殿に祭置
- 社殿 現社殿は明治年間の再建だが、朱塗りの隨身は江戸中期の建立です。
- 祭礼の絹市、大市は全国の生糸取引の標準価格となる程賑わいとなり、養蚕農家の信仰を集めた神社でもあります。
- 祭日7月28日

⑱ 阿部製糸(株)



阿部製糸(株)工場等 最盛期時敷地 赤線部分



| 沿革 | | |
|----|---------------|-------------------------|
| 大正 | 3年(1914) | 創業 |
| 昭和 | 26年(1951) 11月 | 阿部玉糸株式会社設立 (資本金95万円) |
| | 28年(1953) 6月 | 増資 285万円 (資本金390万円) |
| | 29年(1954) | 阿部製糸株式会社に商号変更 |
| | | 10月 増資 115万円 (資本金495万円) |
| | 35年(1960) 9月 | 石蔵新築 (簿価5,592,348円) |
| | | 10月 相馬市中村に相馬出張所を開設 |
| | 39年(1964) 4月 | 宮城県本吉郡志津川町に志津川出張所を開設 |
| | 53年(1978) 2月 | 増資 1485万円 (資本金1980万円) |
| | 54年(1979) 11月 | 売上高が60億円を超える |
| 平成 | 9年(1997) 5月 | 製糸業廃業 |
| | 10年(1998) 1月 | 出資子会社 |
| | | 日本絹糸貿易株式会社を吸収合併 |
| | | (資本金2080万円) |

⑱ 阿部製糸(株)



女子寮



繭格納庫



阿部製糸は大正3年「阿部玉糸工場」として創業され、昭和10年動力化されて近代化し、最盛期には従業員120名を超えた。石蔵は繭格納庫として、近隣には見られない大規模なものである。

18

阿部製糸(株) 製造工程



①生繭を乾燥機に投入



②乾燥仕上がり・コンベアで袋詰め機へ



③選繭



④煮繭 (煮繭機から水流で綿糸機に運ぶ)



⑤綿糸 (日産HR2型綿糸機)



⑥再繰 (揚げ返し)

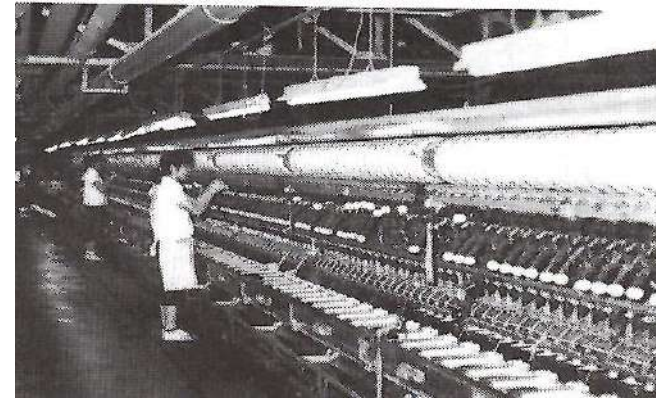


⑦仕上げ



⑧製品

- 玉繭を製糸していた。(シャンタン織りと言う特殊な織物の原糸も製造していた。)



工場内 作業風景

①9

大手橋公園道路竣工記念碑



昭和 8年竣工

構造：R C ラーメン 橋

(片持梁を有する固定端門形ラーメン)

RC造とは、「鉄筋コンクリート造 (Reinforced Concrete)」のことを指します。

実際に鉄筋コンクリートを造るときは、はじめに鉄筋を組みその周りに型枠をします。そこにコンクリートを流し込み固めることで、ただのコンクリートではなく、鉄筋が内部に配筋されている「鉄筋コンクリート」になるのです。

ラーメン構造とは、柱と梁で骨組みを作ったものです。名前の由来は「Rahmen (ラーメン)」というドイツ語で「額縁」という意味になります。柱と梁を組み合わせて、マンションの形をつくっていくというイメージになります。

②0 霊山町憲章碑 (霊山中央交流館敷地内)



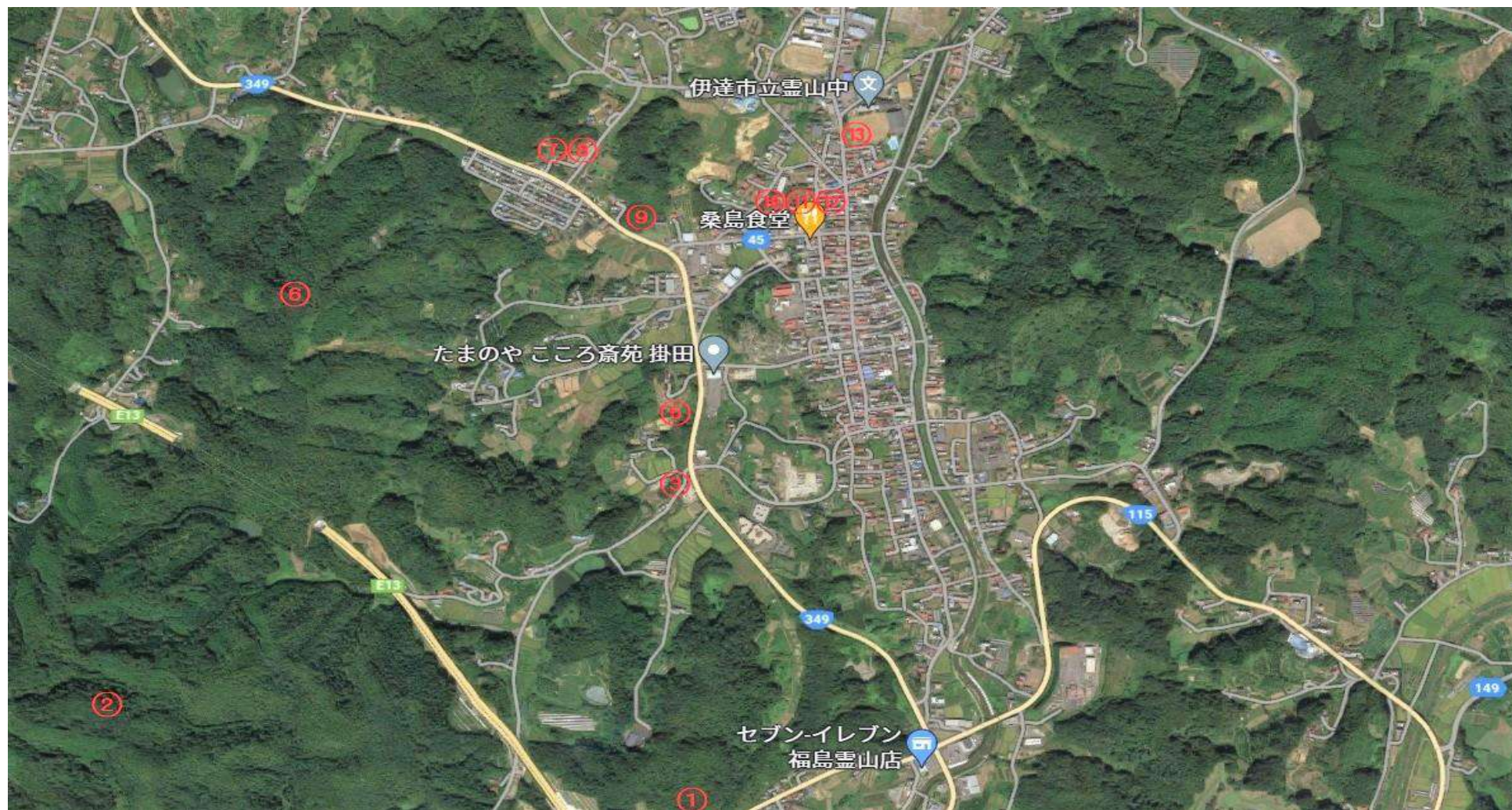
• 町民憲章：昭和60年(1985年)3月16日制定

- わたくしたちは、古い歴史と美しい自然に恵まれた人情豊かな霊山町民です。
平和で住みよい躍進する町をつくるためこの町民憲章を定めます。

【本文】

- 教養を高め、うるおいのあるまちをつくりましょう。
- 健康で楽しく働き、活力のあるまちをつくりましょう。
- たがいに助け合い、思いやりのあるまちをつくりましょう。
- きまりを守り、明るいまちをつくりましょう。
- 自然を大切に、きれいなまちをつくりましょう。

後掛田（谷津・日向前・宮内・朝草口）



引用元：Google社「Google マップ」

① 猫塚山八雲神社



虎猫が御神体

岩壁を刻んで宮を造り岩壁に猫彫り) - 東山頂には金華山の石塔有り

熊野神社社務所より-猫塚山八雲神社の由来 (提供有り)

ご神体 虎猫

猫塚の話

昔から猫に芸を教えると言われていました。昔々1軒のとても律儀な家族が1匹の猫を飼って山の中に住んでいました。

ある日掛田の町に義太夫節(浄瑠璃)がやって来ました。

何も楽しみがない山の中のこと、家族で聞きに行く事になりました。

しかし、家族同様に可愛がっている猫だけ残して行くことは出来ないとおばあさんが残ることになりました。

おばあさんが留守番をしていると赤毛の猫が帰ってきて、「おばあさん一人で留守番では寂しいでしょう、私が踊りや義太夫節やら、皆が見てくるものと同じものを見せましょう」とホーキを持ったり、手ぬぐいをかぶったり、汗だくで頑張りました。

おばあさんはあまりにも上手なのにびっくり。皆が帰ってきて、色々話しましたが、おばあさんの話の中身と聞いて来た中味が同じなのです。

主人はこの猫は化け猫だ。化け猫を飼うことは出来ない、と猫を殺し山寺に葬りました。

この山寺のあった一体を猫塚といい、今もこの地名が残っています。

② 大館山 <山頂に狼煙（のろし）台>



東北中央自動車道 相馬福島道路 霊山IC～掛田トンネル手前左側

掛田村で大館、下小国側
愛宕館と呼ぶ。

地元に館伝承あり。

屋根の標高258m北麓の宮
内集落、尾根中央に直径2
mの円形土塁

深さ40cmに主が建設途中で
茶臼山（懸田城）に移っ
た」という凹んだ狼煙場

（町史 1 p194）

③

古跡神社

<通称毘沙門天>



- 御祭神 天御名戸別命（日本武命）
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字岩崎中島3番地
- （1808年）150年前鎮座 祭神 毘沙門天－弁才天と夫妻として祀られる－蚕神 庚申様 天御名 戸別命を祀る
- 氏子21戸掛田字中嶋に鎮座す掛田郷土史2p17
- 養蚕信仰－農村で庚申講がない村はないほど一般化された蚕神の民間信仰である。（町史1 p521 - p522）



古跡神社境内石塔群

通称毘沙門天

④ 羽山神社

山岳信仰



- 御祭神 大山祇命
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字南羽山20番地
- 精霊の集まる山・羽山は奥山に対する端の山の意味、里近い高山（福島県）
- 相殿1 山祇神社 大山祇命を祀る
- 相殿2 月山神社 月読命を祀る

氏子43戸（史24巻民俗2）

- 稲倉魂の命を祀る大正8年8月8日祭日・天宝11年願主

明治36年8月8日懸田勝盛

⑤ 岩崎の清水



- 昭和初期まで糸取りやお茶水、飲用に利用されていた。
- 国道349号（掛田バイパス岩崎信号から保原方面へ50m左側）今も湧き出ている清水。

⑥ 雷神社 (雨乞い・三本松)



- 御祭神 別雷神
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字
三本松19番地
- 建物なし 朝草口

「西の空雲 湧いて 雨ザー
ザー降ってこおー」

農家の人の結ぶ力は大きい、その日のうち、或いは2・3日すると必ず雨が降ったという。

⑦

蚕養国神社 <別称 蚕養国大明神>



- 御祭神 稚産霊命（わくむすびのみこと）
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字谷津

会津若松市蚕養町の延喜式内社 蚕養国（こがいくに）神社からの勧請と伝えられている。

掛田字谷津に鎮座する稚産霊神命を祀る

次の様な棟札（第1号）が現存する。

「奉造立蚕養国大明神一字

文政6年3月16日（1823年）

導師権大僧都 文殊院遊仙

お蚕様が無事に生まれ、つつがなく成長するように
お祀りした。

⑧

蚕養国神社の庚申塔



蚕養国神社の境内には、100余りの小さな庚申碑が建てられている。

古くは天保14年（1843年）と刻印されたがあり、その後数を増し「三百庚申」明治35年（1902年）と刻まれた石塔もあります。

2022年の地震により多数倒壊しました。

谷津部落では、永く「庚申講」の祭を継続してきました。

農村で庚申講がない村はない程一般化された民間信仰でした。

まお、養蚕信仰で東北地方の庚申塔は17世紀末以前に遡るものはないと言われています。

蚕神様は虫供養、蚕供養といわれ信者の絶えることはありませんでした。

掛田の蚕・掛田くり糸として名をはせた蚕の魂が祀られています。

養蚕の神「蚕があたりますように」「おしゃり（病気）がでませんように」と養蚕農家は信仰の対象としていました。

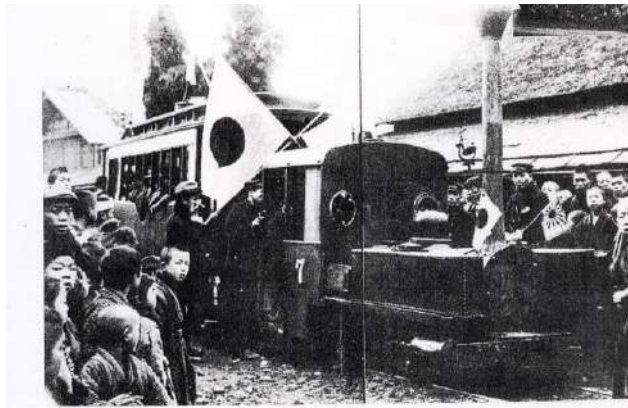
⑨ 石塔山の神



- 霊山町掛田字五城内<県道349号線北側の山>
日向前通称じゃり山に建立してある。
- 石塔 山の神 奉造立山野神供養
享保4年 1719年10月17日建立

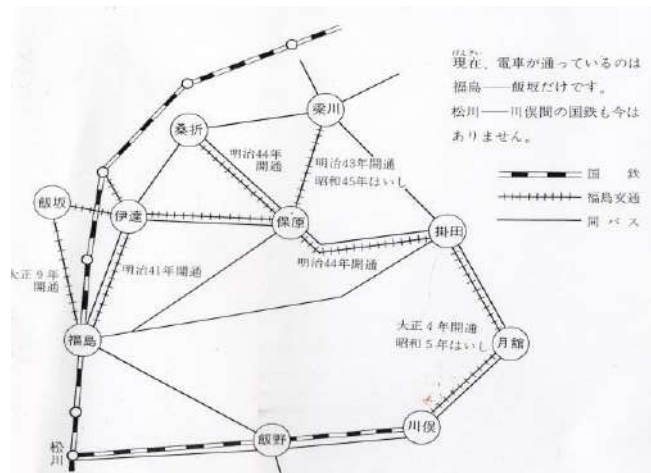
他に南無阿弥陀仏石碑等があり。

⑩ 軽便鉄道

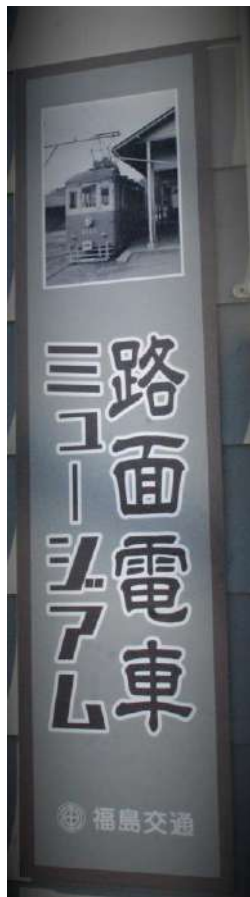


1911年明治44軽便鉄道開通
 電車に改め大正15年12月より
 開通す年4月8日
 開通(福島～掛田～川俣)
 1927年川俣線廃止 郷土史1
 p30

- 昭和15年 電車化工事完成掛田まで 昭和46年4月廃止



⑪ 路面電車ミュージアム



2023年1月末「掛田驛」バスターミナルが改装され、新たに「路面電車ミュージアム」が出来ました。福島交通OBが協力して当時の写真や道具が展示されています。



①2

記念碑

福島交通掛田驛



軌道開通記念碑

掛田驛構内に掛田町が建立している。鉄道の開通により学生はもとより多くの乗客で賑わった。路面電車ミュージアムと併せて当時を偲んで頂けます。

⑬

掛田町の碑 (霊山中学校校庭)



- 昭和30年1月31日合併前一掛田町は永久に消える一掛田町を残したい一碑を建立
霊山史談創刊号p19
- 掛田町一建武2年～応永6年まで 懸田近江守定隆・定勝の領永正9年～伊達輝宗・政宗の領天正18年蒲生氏郷・その子秀行の領、慶長3年上杉景勝、鋭勝の領。寛文4年徳川領代官管轄延宝7年本田平八郎政武の領、天和2年再び徳川領となる。貞享3年堀田正仲、正虎領す。元禄13年徳川領寛保元年松平定賢、定邦、定信、定永これを領す。文政6年阿部鉄丸、正篤、正瞭、正備、正老、正静の領明治元年 戊辰戦争以って召し上げられ相馬因幡守取締地となり、明治2年8月18日福島県管轄となる。霊山史談創刊号p21
- 掛田町の沿革
- 明治元年12月7日陸奥国を分ちて5国とせしとき磐城国に属し明治2年12月8日改めて明治22年3月25日町制施行の結果山野川村を合わせて掛田村とし岩代国に属す明治31年1月19日掛田町と改む 郷土史1 p 5

中屋敷・下在方面



引用元：Google社「Google マップ」

① 愛宕神社



御祭神 愛宕大権現（あたごだいごんげん）

軻遇突智命（かぐつちのみこと）

火産靈命（ほむすびのみこと）

鎮座地 伊達市霊山町掛田字八幡内61番地

火伏・防火に靈験のある神社としていられている。

神社には複数枚の棟札が現存する。

1号棟札 元禄3年（1690年）愛宕山大権現 一宮再建（山の上）

2号棟札 弘化5年（1848年） 二宮再建（現在地）

3号棟札 安政3年（1856年） 遷宮（現在地）

神仏分離令（明治元年・1868年）以前・江戸時代までは、京都聖護院に属し、山岳信仰と修験道を融合した祭神 愛宕大権現（勝軍地藏）として密航の不動明王・大日如来、そして阿弥陀如来等を祀り信仰されてきた。

門守家「文殊院」は愛宕神社に使える神官として支えた。

真言宗 弘法大師・湯殿山の石塔山頂付近にあり

軻遇突智命を祀る氏子54戸掛田字八幡内に鎮座す

② 淡島神社



御祭神 少彦名命（すくなひこのみこと）

鎮座地 伊達市霊山町掛田字八幡内61番地

医薬の神様、女性の病気回復や安産・子授けなどの靈験あらたと伝えられる。
人形供養の神社・針供養の神社として奉納物、絵馬等が祀られている。

③ 古峰神社



- ・御祭神 日本武尊（やまとたけるのみこと）
- ・鎮座地 伊達市霊山町掛田字八幡内61番地

こみね神社・ふるみね神社・こぶがはら様などと呼ばれる。

栃木県鹿沼市古峰ヶ原（こぶがはら）に総本殿が祀られている。

火伏の神・五穀豊穰の神として祀られている。

弘化4年再建 古峰神社（佐藤家祀る）

④ 愛宕神社 境内石塔石碑



- 御祭神 足尾大神
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字清水入7番地
- 愛宕神社境内に祀られている石塔と石碑
- 足尾山・大黒天・山津見神社
- 足尾神社は身体強健特に健脚の守護神
- 出征兵士、その家族の詣でることが多い、
- 武運長久も併せ祈願するもの。

取揚げの足尾様は出兵兵士の郷土見納めの坂でもあり、最後まで見送ってくださったところです。

⑤ 千尋観音（千色寺観世音）



- ・ 信達三十三札所観音 第二十八番
- ・ 鎮座地 霊山町掛田字千尋
- ・ 納経所 三乗院（曹洞宗）掛田字西裏6
- ・ 本尊 聖観本尊
- ・ 伝承 古くは千色寺と言う天台宗の寺院であったが、近世に至って天台系の修験本山派本明院が主管し観音堂のみ維持されたものである。

（出典：札所巡りより）

古いご詠歌 我がとがは ちいろなりとも かのほとけ
あわれみ給い などかうかまん

◆千尋寺か千色寺か

古い御詠歌には「わが科（とが）」は、「ちいろなりけり」とあるのが多い。千尋と千色は発音が近いので両方を使用しているが、歌の意味からみるとちいろの咎（とが）いう意であろう。

山伏本明院は、千色寺、千尋寺両方を使っていたことが明らかである。

どちらが正しいかを証するものがない。

⑥ 愛宕山



掛田八景の愛宕山冬景色

懸田訓平先生の掛田八景の歌

1. 町田橋のホタル狩り
2. 茶臼山の桜花
3. 清水の井戸にカッコ鳥
4. 愛宕山の雪景色
5. 雷神様の藤の花
6. 羽山近くの館の跡
7. 三乗院の大杉
8. 八幡様の二葉の松
(三浦平七様より提供)

⑦ 佐藤家八代

佐藤 友信について



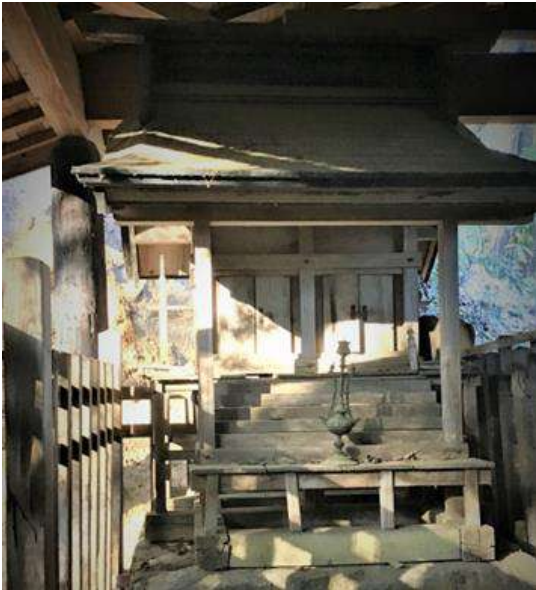
養蚕茶話記 掛田は江戸時代から養蚕が盛んで、日本最古の養蚕技術書の一つである「養蚕茶話記」(1776)の著者、佐藤友信を生んでいる。

友信の父祖三代にわたる「五十余冊の養蚕日記」の集約で表現は当時代、科学の最高水準と同じく冷静な観察によって叙述している。



「養蚕茶話記」が開花したのは、全国に冠たる養蚕・蚕種・蚕物の先進地という経済力の強い流れが郷民の生活を潤し、文化水準を高め、佐藤友信の学芸才智は和歌をよくし、連歌・俳諧に通じた文人で、四代にわたる川城屋養蚕秘法を録した「養蚕日記」の成果を凝集、開花させたものである。

⑧ 春日神社・黄金山神社 (川尻内)



- 鎮座地 福島県伊達市霊山町掛田字川尻内10
- 春日神社と黄金山神社とが並列で並び、先祖代々佐藤家の守り神として祀られている。
- 佐藤邦宏様宅 西上の山

⑨ 佐藤家一同の墓地（川尻内）



先祖代々の墓石群

- 佐藤家本家(佐藤邦宏氏宅)裏山ニヶ所に墓地がある。
- 佐藤総家初代佐藤信種
(瀬成田城主越中守 1476～1562 87歳)
伊達家に仕える
曹洞宗拈華山三乗院開基 天文元年(1532年)
法名 河東院殿逆流道順居士
2代 義信(伊達家に仕える)
3代 常信(通称 利右エ門)帰農する(農桑の道につく)
4代 秀信(通称 源兵衛)
5代・6代・7代・8代
第二墓地(9代 以降の墓地)
9代 佐藤友信 享保3年～天明6年(1718～1786) 69歳没
養蚕・蚕種の製造販売、生糸真綿の取引等、白河藩の御用達
家伝の蚕品種「野蚕」を改良、明和3年「養蚕茶話記」を著した。
深く禅に帰依し、書をよくし、漢籍詩文に通じ、歌を詠んだ。

⑩ 中屋敷 熊野神社 (菅野家氏神様)



菅野家一同氏神様 脇に大国主の
石塔竹藪伝えに歩いて横一列の墓
石 河東院の大きな墓石 佐藤家一
同初代の碑



菅野家氏神様 脇に大国主
の石塔

①① 弁財天 (富山)



- 弁財天(富山) 故桑島正光宅より西山中腹
眼下に岩代工業
文政建立 石塔5/2祭り 女神様
- 辨財天神の碑
- 掛田字館178番地 引地松男様宅の裏山の中腹に、
数多くの石碑が立ち並ぶ5坪程の広場がある。
この上段に 天保14年癸卯年 竹生嶋流
先師近江國 榊原左京大夫 藤原 保房
辨財天神 9月26日
- 天保14年(1843年)今から164年前に建てられたものと思われます。
- 大石広畑地内にも存在しますが、大石の記念碑は明治になって建てられたものと思われます。

⑫ 湯殿山と庚申様



岩代工業敷地西側道路脇に石塔があり、湯殿山と庚申様が祀られています。

あしがき

生糸で栄えた掛田の町。世界地図にある日本の中に横浜と掛田が記されていたという。

このたび、多くの方々のご協力によって「掛田の歴史ガイド」をまとめる事ができました。

数ヶ月前建物があつた所が更地（さらち）になり、果たして何があつたけ？と記憶というのは実際にはかないもの、今回も話には聞いていましたが実際は何も無くなつてしまつていたり、自然災害で失つてしまつた物も多数ありました。

発刊に当たり多くの方々のご協力を頂きました。

養蚕に関する事ではりょうぜん天蚕の会八島利幸様より多くの資料提供を頂きました。

また、掛田町全般の歴史については郷土史家佐藤隆昭様より資料とご指導を頂きました。

長年の思いを実現するためにご協力ご尽力頂きました皆様々に心から感謝と御礼を申し上げます。

<掛田自治協議会 掛田の歴史ガイド製作委員>

委員長 岡崎勝弘 事務局長 渡辺 隆

全 般 : 大友 靖子・佐々木 彰・阿部 隆雄・渡辺 隆・佐藤 美喜夫・森久保 操

館・陣場方面 : 引地 正広・大橋 イツ子・引地 秀樹・大友 俊範・佐藤 守・館 奨一

宮内・朝草口方面 : 岡崎 勝弘・渡辺 隆司・斎藤 善司

谷津・日向前方面 : 大河内 正一・鈴木 友治・佐藤 隆昭

中屋敷・下在方面 : 清野 良治・佐藤 邦宏・菅野 茂光・門守 直之・菅野 力雄

町 中 : 佐藤 吉彦・八島 利幸・大竹 重政・渡辺 隆一・大橋 正禧

出典元 : 霊山町史・霊山町教育委員会・霊山史談・福島県立図書館・亀岡神社宮司

斎藤 直之様・三乗院住職大室 俊英様・阿部製糸(株)阿部 善武様・岩喜呉服店

高野 喜七様・河城屋佐藤 吉彦様・りょうぜん天蚕の会八島 利幸様・郷土史家

佐藤 隆昭様・Google マップ・掛田地区健幸都市協議会

その他取材による聞き取り調査等による。

掛田自治協議会

〒960-0801

福島県伊達市霊山町掛田字西裏17番地
(霊山中央交流館内)

電話 (024) 586-1314

FAX (024) 586-3391

Mail:kakedajichikyougikai@aioros.ocr.ne.jp

発刊：2023年4月

無断転載禁止